

# 東京・大阪 風通信



手打刃物の即売

●第八回伝統的工芸品展開催  
東京西武池袋店で一月十三日から十八日まで全国から二百六十の工芸品三千四百点を一堂に集めて開催された。本県からも多数の出展があり、特に天草パラモン凧が初めて顔を出し、注目を集めた。

なお、コンクール審査の結果、県関係では日本商工会議所会頭賞（もみおろし籠 四ヶ所大木氏（南関町）ほか四点が受賞した。



くまもと うまいものフェア

## 東京だより

●熊本空港問題懇話会開かれる。  
二月三日に麴町会館で初代会合が開催され、細川知事と県内外の航空問題等の有識者である委員との意見交換が行われた。席上では熊本空港についての多くの意見が出され、特に国際線の振興については九州サミットの開催や国際的イベントの誘致など旅客需要開発のための広い視野にたつた有意義な提言があった。

●新食品開発研究会が二月十四日、高輪プリンスホテルで開かれた。これは都会の消費者の好みにあわせた食べものをつくりだし、果の地場産を振興しようという試みのひとつとして行われたもので、「くまもと名産会」が主催。くまもとの食べものについて、あらゆる角度から活発な論議が交され、県産の新しい食品を登場させようという熱気が会場に溢れた。

なお、十五、十六日は銀座のソニービルで、「くまもととうまいものフェア」が開催された。（東京事務所）

④特集のページは毎号テーマを決めて取り組まれることと思いますが、67号は少々もの足りなさを感じました。もっと詳しく、もっと掘り下げて、ページを割いて取り上げてもらいたいと思います。

また、「声」のページには、読者（県民）の生の声をもっとたくさん載せてください。（本渡市 戸田俊文さん）

⑤特集は何と言っても本誌の中核です。67号では「緑」について掲載しましたが、やや平面的ではなかったかと思っています。今後は、いろいろな考え方を取り上げたり、問題を深く掘り下げたりして、さらに迫力のある内容を目指します。このページでは、できるだけ多くみなさんのご意見を紹介し、これからの編集に生かしたいと思っています。

## 県広報のご案内

- ▶ 広報誌  
「くまとの風」 奇数月の15日発行
- ▶ 新聞  
「熊本日日新聞」 毎月1回  
「朝日・毎日・読売・西日本」各紙年7回
- ▶ テレビ  
「県民のひろば」（日曜日）  
RKK AM10:30~10:45  
「県民サロン」（日曜日）  
TKU AM9:00~9:15  
「ズームアップくまもと」（土曜日）  
KKT AM10:45~11:00
- ▶ ラジオ  
「おはようあなたの県庁です」（日曜日を除く毎日）  
RKK AM7:40~7:45  
「おしらせ」（土・日を除く毎日）  
NHK PM6:50~7:00  
「あすの農山漁村」（日曜日を除く毎日）  
RKK AM6:55~7:00
- ▶ テレホンサービス  
「県庁だより」（096）322-4500  
「くらしのダイヤル」（096）322-0999

県内では約二万七千人の技能士がその技術を生かして働かれています。その一級技能士の中から選ばれた熟練技能士による全国競技大会（技能グランプリ）でのこれまでの成果や、今年の出場者の意気込みを、仕事ぶりを交えて紹介しました。

## わかりやすく親しみやすく

新聞広報について

▼自信にしたい 熊本この一年の知恵 ▲（十二月二十四日付・毎日）  
（二十五日付・読売、西日本、熊日）  
（二十八日付・朝日）

年末にあたり、一九八三年の熊本を振り返ってみました。

細川知事誕生をはじめ、国際交流の発展、各種懇話会の設置、緑化推進テクノポリス建設など、熊本の新しい息吹を全国にアピールした年でした。



▼熊本の若い知恵 ▲写真  
（二月二十五日付読売（二十八日付・朝日、毎日、西日本、熊日））

素晴らしい故郷・熊本を守り、さらに輝かしい明日をつくり出そうと、情熱を傾ける多くの若い力が育っています。

農林漁業、社会福祉、伝統芸能、地域づくりなど、様々な分野で活躍しているグループの一部を紹介しました。

この他にも県内いたる所で活躍する若い力。期待できそうですね。

## 時代を的確にとらえます

テレビ広報について

KKTズームアップくまもと  
一月二十八日放送  
「ちよんかけクラブ」  
宇土市の鶴城中学校では、クラブ活動の中にちよんかけゴマを取り入れています。

担当の小山先生もなかなか腕前ですが、生徒にも名人がいて、これがまたすごい。

熊本独特のこの遊びが悲で見られなくなった昨今、生徒たちの楽しそうな様子が印象的でした。

TKU県民サロン 二月十九日放送  
「春の植木市」  
毎年恒例「春の植木市」は、春を呼ぶ催しとして全国的にも有名です。

日本一といわれる規模と四百年の歴史を誇り、期間中は県内外からのお客さんでいっぱい。

売り手と買い手のコミュニケーションの場として親しまれているようので、取材の時はベテランの植木屋さんが木の植え方を実演してくれました。

RKK県民のひろば 二月十二日放送  
「技能グランプリを目指して」



市場を視察する知事

●二月二日、名古屋市中京の市場代表者を招き、知事出席の下に「熊本県青果物流通懇話会」が開かれた。当地域には、県の青果物粗生産額の約一割が入荷され、その量は年々拡大している。

懇話会では、更に流通の活性化を図るため、県産青果物の流通上の問題点や今後のあり方等について突っ込んだ話し合いが行われ、次のような提言や指摘があった。

①鮮度維持対策の必要性 ②地域特性を生かした周年供給体制の確立 ③和食の見直しによる、野菜の消費の増大 ④流通情報処理の必要性 ⑤ニーズに応じた産地形成・生産形態見直し

なお、知事は早朝から、名古屋北部市場で出荷状況、施設等を視察した。（大阪事務所）



市場を視察する知事

## 大阪だより

県産青果物の流通を考える

●一月二十五日、愛知県蒲郡市で東海地区の豊材料問屋さん等約六十名を招き、「くまもと表求評会」が開かれた。

本県のい草生産量の急速な伸張と著しい品質の向上に対する賛辞や品質改善の要望等の意見が出された。

●県産青果物の流通促進のために京阪神中京地区の主要な市場関係者で構成されている「熊本県青果物研究会」が十五周年を迎える。これを記念し二月八・九の両日、それぞれ大阪と名古屋で講演会を行った。

●大阪府内の昨年の県産青果用タケノコの入荷量は約八五〇トン（全市場取扱量の二五%、全国一位）であった。

## 健康メモ

### 合併症、感染症がこわい糖尿病！

糖尿病は、膵臓のインシュリンというホルモンを分泌する働きが充分でないために起ります。

遺伝的要因と過食、運動不足等による肥満、ストレスその他の要因が重なって発症すると考えられています。

自覚症状としては、①のどのかわき ②尿の回数と量が増える ③からだがだるく、疲れ易い ④やせる 等があります。

治療には、食事療法、運動療法があります。これでは、効果が無い場合に薬物療法を行います。

食事療法では、尿に糖が出ないように食事を制限しすぎると、低血糖になり、ショックを起すことがあります。一日の生活、運動に必要なカロリを確保し、栄養素のバランスをとるようにしなくてはなりません。また、軽い運動をして、ストレスを解消し、太りすぎの場合は、標準体重に近づけましょう。

糖尿病は、糖が尿に出るだけではなく全身的な病気で、血管の硬化が進み易く、神経障害が起ったり、眼がかすみ、手足のしびれ、痛みがでることがあります。また、抵抗力が弱って、感染症にかかり易くなります。甘くみて適切な療養を怠ると、いろいろな合併症、感染症につながります。

（県健康指導課長 本郷尚史）



身近な情報源  
ラジオ広報について  
おはようあなたの県庁です  
RKK 一月二十五日放送  
「裸まつり・天草郡笠北町」

三十人余りの青年が、身を切るような真冬の海に御興を担いで飛び込み、この一年の無病息災を祈願する裸まつり。若者の一人は、

「最近ではコミュニケーションの場が少なくなっていますが、年一回の男の行事であるこの祭だけは、地区民あけて参加し、青年会も皆楽しみにしています。」と、寒さを吹き飛ばしていました。

